

## 授業改善等に関する報告書（2021 年前期）

## 授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

## [2021（前期）美学美術史学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
仏教美術史演習 a	武笠朗	今年度は始めと終わりの5回が対面、間の9回が双方向・オンデマンドと変則的でした。こちらもありづらかったし、みなさんも対応に苦慮したでしょう。でも出席状況は総じて良かったです。発表もかなりがんばったと思います。発表の感想をチャットで記入してもらってましたが、今後はその内容をより深いものにするよう努力してください。発表内容に対するきちんとした質問とか、発表者に対する誠意ある助言とか、です。がんばりましょう。
美学特講 c	大澤慶久	授業アンケートのご回答ありがとうございました。アンケート結果は、授業内容がそれなりに難易度の高いものであったにもかかわらず、全体として比較的良好なものであったと捉えます。パワーポイントで一項目ごとに進めていき、各美術史家や批評家の論理を一つ一つ丁寧に追っていくこと、具体的な作品事例による直感的な説明、復習時に授業内容を思い出しやすいよう引用文ごとにパラフレーズを付したレジュメ作りなどが、そのような結果に繋がっているのではないかと考えます。 とはいえ、そうした結果は何より、学生の皆さんの授業に対する積極的かつ熱心な取り組みのおかげでもありました。この事実が、皆さんの対面での真摯な授業態度や、毎授業のリアクション・ペーパー（授業内容+疑問点・興味深かった点）ならびに学期末レポートの質の高さにありありと表れております。もとより、皆さんの美学・美術史における興味関心の対象は、千差万別であったと思います。それにもかかわらず第1回から第14回まで、そして学期末レポートに至るまで、各自授業内容をきちんと消化し、美学的な問題や取り上げた作品について一つ一つ丁寧に考察しておりました。今後、そうした積極的かつ熱心な姿勢を継続していただければと思います。 なお、改善点に関しましては、学生の皆さんひとりひとりの十全な理解と美学・芸術学への関心の向上を目指して、より分かりやすいパラフレーズ、然るべきタイミングで美学的な問いを投げかける等、さらなる工夫を凝らすことに努めます。
卒論ゼミ a	児島薫	今学期は途中からリモートになり、manabaを通じて個別に情報を示したり、全員に共通する注意をアップしたりしましたが、対面なら図録をお貸ししてコピーしていらっしゃいと言えたところもあり、不便であったと思います。アンケートの設問がゼミの授業形態に合致しないので答えにくかったと思います。わかりにくいことがあればどうぞ個別に質問してください。
日本近代美術史入門 a	児島薫	今学期は途中でリモート、また対面と変更になったので、戸惑いもあったと思います。初めて知ることが多かったかもしれませんが、真面目によく学んでくださったと感じています。今後状況がゆるせば、ぜひ美術館に行き授業で習った作品を実際に見てください。
デザイン実習 a	下山肇	社会にある実際のデザインを取材することで、ただ作品を作るだけでは得られない、作り手の意図や論理的思考、それらを通してのデザイン的な問題解決の提示が習得できたようである。 また担当教員の実体験に基づくデザインについてもっと聞きたいとのリクエストがあったので、今後は授業内で少しお混ざり混ぜて進めていく。
身体文化論	串田紀代美	2021年度の前期は、対面で開始されたもののすぐにオンデマンド型授業となり、学生のみなさんには大変ご迷惑とご不自由をおかけしました。そのような状況の中で、履修者のすべてが自己の成長を感じてくださったことが、担当教員としては何よりの喜びです。毎回の授業課題や学期末のプレゼンテーションを通して、一人ひとりの大きな成長を私自身もはっきりと感じることができました。この成長を自分自身で正面から受け止め、今後の大きな自信につなげていただければと思います。
仏教美術史入門 a	武笠朗	今年度は、対面授業が始めと終わりの各3回計6回、中間の8回がオンデマンド形式となり、2つの授業形式の混在でがたいへんやりづらかった印象があります。manabaを使用して授業の双方向性を高めようとしたのですが、依然として課題です。講義中心の授業形式なのでなかなかむずかしいのですが、少しでも高めるべく工夫をしたいと考えます。みなさんのコメントへの反応をもう少し努力したいと考えます。また他の先生の試みを取り入れたりとかもしてみたいと思います。みなさんには、対面にせよオンラインにせよ授業をしっかりと聴く努力を求めます。
卒論ゼミ a	下山肇	アンケート提出者無しのため無回答
卒論ゼミ a	武笠朗	回答が1人ですのでほぼコメント不能ですが、中間発表の修正レポートについて一言。発表時の武笠助言を反映させなさい、としましたが、それがなかった人が多かったです。ほぼ発表時と同じ内容で出てきたみたい。心当たりのある人は反省してください。後期はいよいよ本格的に卒論執筆です。がんばりましょう。
デザイン入門 a	下山肇	色彩や構成などの基本的な技法を学びながら、「デザイン」に関しての概念や思考法についての基礎が身についたようである。 特に「人に説明できるようになった」や「観察力、新しいものの見方がついた」など、自身の成長に対する実感を持って修了できたことが伺える。  コロナ禍での対面授業ということで設けた作業テーブルを仕切るパーティションが、隣席の学生とのコミュニケーション不足に繋がったり、板書が見えづらかったりすることがあったようなので、改善していく。

## [2021（前期）美学美術史学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
西洋美術史特講 c	駒田亜紀子	今期の授業は、対面型と双方向が半々となり、それぞれのメリットとデメリットが際立つ結果となったと思います。教室の大きなスクリーンの画像を指しながら、作品を立体的に理解できる対面型の授業のメリットをオンラインで実現するのは難しいです。その中で、皆さんは、授業で紹介した外部サイトを閲覧するなど工夫しながら学びを深め頑張ったと思います。より授業の理解を深めて皆さんの成長につながるような授業をさらに工夫してゆきたいと思います。
民俗芸能特講 c	串田紀代美	2021年度の前期は、対面で開始されたもののすぐにオンデマンド型授業となり、学生のみなさんには大変ご迷惑とご不自由をおかけしました。そのような状況の中で、履修者の95%がこの授業に満足してくださったことは、担当教員として大きな励みになります。コロナ禍では授業が双方向になりにくく、学生のみなさんの意見を十分に把握することが極めて難しい状況でした。またオンデマンド型授業では、内容をより専門的に深めていくことが非常に難しかったのも事実です。それにもかかわらず、多くの方が授業に対して真摯に取り組み、授業運営に協力してくださったことにあらためて感謝いたします。今後も、身近な生活文化への関心を持ち続け、知的好奇心をますます高めていただければと思います。
絵画入門 a	織田涼子	多くの項目で平均より高い評価を得ることができた。授業で得たデッサンの基礎知識を実践して描写力を向上させ、「自身の成長を実感できた」という意見が多いことは良かったと思う。卓上デッサン以外のクロッキーや着彩は、短い制作時間で体験したが、制作に活かせるような見方や考え方を示す工夫は少なかつたかもしれない。今後は、質問がしやすい等、双方向授業の方法を検討し、さまざまな描き方があることを理解できる実習に改善したい。
日本美術史特講 c	仲町啓子	双方向の授業では、対面の時と進めるスピードを（話すスピードを）変える（ゆっくり話す）必要があったと思います。
中国美術史入門 a	宮崎法子	たくさんの内容を詰め込みがちでしたが、今回は、オンデマンドが多かったため、比較的、よく理解してもらえたようで安心しました。どの形式がふさわしいかという問いには、双方向、オンデマンド、双方向+オンデマンドと対面が、それぞれ同じくらいの比率になっていました。やはり理解を深めるためには、オンデマンドが必要かと思いました。皆さんの自己評価がAが一番多かったのは、試験結果とも一致しています。
デザイン入門 a	下山肇	色彩や構成などの基本的な技法を学びながら、「デザイン」に関する概念や思考法についての基礎が身についたようである。特に「人に説明できるようになった」や「観察力、新しいものの見方がついた」など、自身の成長に対する実感を持って修了できたことが伺える。 コロナ禍での対面授業ということで設けた作業テーブルを仕切るパーティションが、隣席の学生とのコミュニケーション不足に繋がったり、板書が見えづらかったりすることがあったようなので、改善していく。
デザイン実習 d	下山肇	産学連携によるSDGsを扱った課題に取り組むことで、デザインと社会のつながりを具体的に身近なものとして意識することができた。グループワークをメインとした授業形態によって、必然的に他の履修者とのコミュニケーションが促され、協調性や新たな気づきを得られたことで、履修者それぞれが自身の成長を実感できたようだ。 履修者たちが実際にどのような提案をするかが見えないので、授業形態をオンラインにするか、対面にするか、事前判断することができないが、今後も履修者たちと協力して臨機応変に進めていきたい。
卒論ゼミ a	宮崎法子	提出者が少なかったので、コメントが難しいです。卒論各自進めてください。夏休み終わりに成果を期待しています。
卒論ゼミ a	仲町啓子	これからも学習を深めたい人が多いのは頼もしい
西洋近代美術史特講 c	六人部昭典	コロナ禍の影響でオンライン授業が多かったが、アンケートを見ると、概ね順調だったといえる。これは、学生たちの熱心な受講の結果に他ならない。復習と予習について。復習では、動画の配信が有効だったようだ（特に授業の進行が速かった部分）。予習については、事前に資料と質問を配信したが、十分には機能しなかったように感じる。関心の深まり→授業→目を通しての理解。このプロセスに結び付けたいと思う。
日本美術史演習 a	仲町啓子	多くの方が積極的に発言してくれたので、活発な討論が出来たと思います

## [2021（前期）美学美術史学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
卒論ゼミ a	駒田亜紀子	コロナ禍では、実物の資料を閲覧したりしながらの指導、対面方式で質問等に答えながら卒論指導を進めるのに、困難が伴いました。その中で、皆さんはとてもよく頑張ってくださったと思います。後期の授業では、卒論の完成に向けて、よりきめ細やかな、個人のニーズに対応した指導を工夫してゆきたいと思います。
グローバル・アートスタディズ f	串田紀代美	2021年度の前期も、対面で開始されたもののすぐにオンデマンド型授業となり、学生のみなさんには大変ご迷惑とご不自由をおかけしました。そのような状況の中で、履修者の98%の方が自己の成長を感じ、授業に満足して下さったことが、担当教員としては何よりの喜びです。文章スキルの鍛錬は、今後の人生をあゆむ中でずっと続く作業です。授業では、「書く」ことの心理的なハードルを下げ、書く行為に慣れることが目的でしたが、この目的をある程度果たしたことが、授業アンケートから読み取れました。文章力は、みなさんの人生を切り開く上で武器になります。洗練された日本語の使い手をめざして、これからも学び続ける意欲を持っていただければと思います。
基礎演習	小倉絵里子 金原さやこ 桑和沙 嶋田紗千	アンケートへの回答をありがとうございます。いただいたご意見、ご要望はしっかり受け止めて、今後の授業運営に反映していきたいと思っています。今年度はコロナ禍により予定していた東京国立近代美術館の全体見学は叶いませんでしたが、個別見学後に提出してもらったディスクリプション課題や期末レポートからは、「作品を見る力」が確実に身につけてきていることがわかります。とはいえ、文献の書き方や注の付け方などは、繰り返し記述することが大切です。授業で配布したプリントとあわせてよく復習し、今後の他の授業のレポート作成に活かしてほしいと思います。
民俗芸能入門a	串田紀代美	2021年度の前期は、対面で開始されたもののすぐにオンデマンド型授業となり、学生のみなさんには大変ご迷惑とご不自由をおかけしました。そのような状況の中で、履修者の88%がこの授業を通して自己の成長を感じてくださり、95%が授業に満足して下さったことは、担当教員として大きな喜びです。コロナ禍では授業が双方向になりにくく、学生一人一人の意見を十分に把握することが極めて難しい状況でした。それにもかかわらず、授業に協力して下さった方が多かったのが印象的です。今後も、身近な生活文化への関心を持ち続け、知的好奇心をますます高めていただければと思います。
日本近代美術史特講 c	児島薫	1年生の「入門」とは異なり、作品を覚えるのではなく、それについて考える授業にしたいと思いました。同時に、みなさんには日本近代の作品に親しみを持ってもらうことも目指しました。おおむね満足していただけたようでよかったです。
日本近代美術史演習 a	児島薫	今回は途中で美術館が閉まって課題の実施が困難となるなど、イレギュラーなことがあり、多少変更を余儀なくされました。今後も様々な事態に備えて、早めに対処したいと思います。
西洋近代美術史入門 a	六人部昭典	アンケートを見ると、授業は概ね順調だったといえる。今年度もコロナ禍の影響でオンライン授業が多かった。それでも、学生の理解が深まったのは、学生自身の熱心さの結果だろう。また、小レポートなどで、取り上げる作品について、あらかじめ考える機会を設けたことは、良い導入になったようなので、今後も活かしたい。
卒論ゼミ a	六人部昭典	卒論ゼミでありながら、コロナ禍の影響で、大半がオンライン授業になった。ただし、アンケートを見ると、授業の目的は概ね達成されたと思う。発表準備（事前にレジュメを提出し、相互閲覧）、そして発表と討議へと進められた。学生たちの熱心な受講の結果である。理解の深まりを、後期の卒論作成に結び付けたいと思う。
中国美術史演習 a	宮崎法子	皆さんアンケート回答ありがとう。対面で出来なくなって残念でしたが、一人一人、作品と向き合って、作品を見るのがだんだん出来て、また言葉にすることも上達してきたと思います。それぞれの個性に合わせて、うまく指導できたらいいと思っています。やっと最後の対面での発表で、名前と顔が一致し始めました。後期は対面中心で授業をして、また作品の扱いや展示作業もしたいと思います。
西洋美術史入門 a	駒田亜紀子	今年度の西洋美術史入門aは、教室での対面授業とオンデマンド授業が半々となり、両者の違いに戸惑われた学生さんも多いと思います。オンデマンドではどうしても、スライド上の作品を指しながらの説明が不足し、また拡大画像を見ることも困難でした。その中で、紹介した外部サイトで作品画像を繰り返し見るなどしながら、工夫して授業の理解を深めてくださったと思います。皆さんの頑張りにこたえられるよう、さらに工夫して授業を進めてゆきたいと思います。
中国美術史特講 c	宮崎法子	対面で作品を見ながら進める予定でしたが、一部しか出来ず残念でした。双方向オンデマンドでは、課題提出が求められ、それが出席になるので成績に占める割合も多くなっています。皆さん熱心に参加してくれていたと思いますが、そのなかで、不本意な成績の学生さんがいたかもしれません。後期は対面授業で出来るようにしたいと思います。

[2021（前期）美学美術史学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
卒論ゼミ a	織田涼子	アンケートの回答はありませんでした。
絵画入門 a	織田涼子	多くの項目で平均より高い評価を得ることができた。実際に描くことで絵の技術が身についたという意見が多く、「自身の成長を実感できた」ことは良かったと思う。他の項目に比べて、双方向授業の工夫に関する評価は下がることから、質問のしやすさ、事前学習の方法などを改善する必要がある。入門は、全体に向けて制作方法を詳しく説明することで、個別に技術を学ぶ時間が充実するのではと考えているが、各自で表現方法を工夫する時間は少なくなる傾向にあるため、課題の提示方法を改善し、制作時間を調整することは今後の課題である。
日本美術史入門 a	仲町啓子	かなり良く理解していたので安心しましたが、双方向はこの状況下では難しかったですね。チャットでも良いので質問してください。
西洋近代美術史演習 a	六人部昭典	演習の授業でありながら、コロナ禍の影響で、オンライン授業が多くなった。それでも、アンケートを見ると、概ね授業の目的は達成できたと思われる。学生たちの熱心な姿勢の結果だろ。 ほぼ毎週、課題レポートを課したが、添削例の提示を含め、日本語力（文章力）の向上に結びついたようだ（自由記述）。この成果と関心の深まりを、後期授業、さらに次年度の卒論ゼミにつなげたい。
西洋美術史演習 a	駒田亜紀子	演習は、教室内での質疑応答や議論に重点を置く授業ですので、オンライン授業にする場合、かなりの制約を受けてしまいます。教員と学生さんたちのお互いの顔が見えない中での授業は、皆さん方の不安も大きかったことと思います。たとえオンライン授業でも理解を深めて皆さんの成長に結びつくような方法をさらに工夫してゆきたいと思います。
絵画実習 a	織田涼子	アンケートの回答はありませんでした。